

学校関係者評価 <第3回学校評議員の会において実施>

期 日 令和2年2月7日(金)
出席者 学識経験者、小野校区の子どもをよくする会副会長
民生児童委員会代表、社会教育推進員
PTA 会長、三城幼保園長、三城幼保園 PTA 会長

1 学校教育目標「よく考え」や「小野小の授業はこれだ！」に関わって

- 聞く・話すに焦点化した活動の成果が見られた。(低学年の聞く姿勢、仲間の発言を高学年の最後まで聞きとろうとする姿、ホタルの発表をよく練習し暗記して、クイズ形式で楽しく活動する姿)
- 英語教育は、指定校の有利さを生かして今後も取組んでもらいたい。階段や廊下掲示に英語が身近に感じることができる。ALTが入る授業では、ぜひオールイングリッシュの授業をめざしてもらいたい。
- 英語が好きになる楽しい授業が小野小学校では行われている。
- 全体的に落ち着いて授業を受けているように感じた。子どもたちを集中させる力がある先生は、聞く、話す力もついているように思う。
- 学年が上がるにつれて聞く姿ができていると感じた。
- 1年生の算数では、一人一人ブロックを使って視覚的に考えさせる授業があり、感心した。
- 評議員が教室に入っても落ち着いた雰囲気の中、聞く姿勢を崩さず、授業に参加する子どもに感心した。
- さらによい学ぶ姿にするために「うなずいたり、笑顔で聞いたり」する姿を指導していけるとよい。
- 挙手の多い学級と少ない学級、手の挙げ方がピンと伸びている学級と緩んでいる学級、話し手の方を向いて聞く学級と向かない学級など、学級によって様々である。

2 学校教育目標「はげまし合って」に関わって

- 英語教育は早くから英語に触れさせることはよいことなので、ALTと多く触れ合う時間をつくり、親しみをもって活動してほしい。
- 高学年では、付け足し発言や挙手内容を指で出せるなど、見本となる姿であった。
- あいさつをこちらからすると返してくれる子ばかり。自分から進んでする子に育ててほしい。
- 廊下ですれ違おうと進んであいさつをしてくれる子が多く、とても気持ちがよかった。
- 外国籍の子どもが多いことを知った。通訳など学校内で整備していかなければならないことが多く、学校の大変さが分かった。
- 授業でグループの話し合いが多く取り入れられており、楽しそうに授業に参加している子どもが多い。仲間と一緒に学習することはよいことだと感じた。

3 学校教育目標「やりぬく子」に関わって

- 算数の少人数教室であったり、少人数指導をしたりする環境があり、先生方の工夫や取組がよく分かった。
- 声の小さい子どもをそのままにしておかず、うまく気づかせるように声をかけている姿がよかった。
- 先生が自分の方を向かせる声かけを「先生にビーム送って。」や「まだビームが弱いよ」といって興味を引かせる工夫があってよかった。
- 新しい校舎でないのに、掃除はいつも行き届いていて、廊下もきれいで unnecessary な物が置いてない。
- 問題が早く終わった子どもが暇そうに待っていたので、次の問題を与えるなどの工夫があるとよいのではないか。
- 書くことについては、姿勢、量、内容など一人一人にばらつきがあり、気になる子もいた。遅れ気味な子どもへの指導や対応を大切にしてほしい。

4 その他

- ・若い先生の笑顔が素晴らしい。落ち着いて授業を進めていてびっくりした。
- ・保護者アンケートが届くといつも「ハッ」とさせられることが多く、自分自身を振り返られるのでありがたい。一部の無関心な方に問題や課題があるのだろうとってしまう。
- ・地域行事やボランティア活動、少年団などの参加が少なくなってきたように感じます。社会性を学ぶよい機会ととらえ、そういった活動にも参加してくれるようになってほしい。
- ・これからの時代は、英語教育やICT機器を活用した授業が必要だと感じている。
- ・先生方も大変だと思うが、個性を生かして子どもと一緒に成長する気持ちで接してほしいと思う。
- ・不登校が規模の割に少ないように感じた。大変なことだが一人一人に対応して行ってほしいと思う。
- ・校内の掲示物が学年毎に貼られているとどんな活動をしているかがよく分かる。先生方に無理のない、子どもの成長を分かるような掲示物を続けてほしい。(保健室の掲示物はいつ見ても楽しく、話題性がある。)
- ・もっと子どもの作品が飾ってあるとよいのではないか。
- ・空気清浄機や加湿器などが配置できるとインフルエンザ対応などができるのではないか。
- ・カバンが重いことが話題になっているが、ランドセルでなく、リュックのような軽いものにしてはどうか。